

第16章 成果と課題

第1節 星光山荘B遺跡について

本報告書の第2章星光山荘B遺跡では、ミミズバレ状の隆起線文土器が多量に出土した。これらに伴出して神子柴型石斧（第2章では局部磨製の斧形石器）と有茎尖頭器が出土した。この節ではこれらの土器と石器に類似する長野県内の類例遺跡をあげる。

1 隆起線文土器

星光山荘B遺跡の隆起線文土器は、第2章で4群に分類された。第1群は同じ隆起線文が繰り返すもの、第2群は上段と下段と異なる文様で構成されるもの、第3群は横走する文様の中に縦走（斜走）する文様で変化をつけたもの、第4群はその他単独の文様のものである。これらに類似する隆起線文土器を出土した長野県内の遺跡には、須坂市石小屋遺跡（永峯 1957）・戸隠村荷取洞窟（神田他 1963ほか）・高山村湯倉洞窟（関 1971ほか）信濃町狐久保遺跡（小林孚 1983）、日義村二本木遺跡（神村1965）、川上村立石B遺跡（長野県史刊行会 1988）、開田村柳又B遺跡（長野県史刊行会 1988）などがある。

第1群に類似するものは石小屋遺跡のもので、口縁部に2条の小波状の細い隆起線文が巡り、その下を数条平行の隆起線文が巡っている。

第3群に類似するものは荷取遺跡のもので、数条微隆起の隆起線文が縦走と横走、あるいは横走と斜走に施文されている。石小屋・荷取遺跡とも数本のヘラを平行に同時に動かした際にできる微隆起を基調とした施文である。この施文方法は星光山荘B遺跡の文様施文と類似する。

長野県外で類似する土器には、山形県日向洞窟（井田 1990）、新潟県壬遺跡（小林他1980ほか）、新潟県小瀬が沢遺跡（小熊他 1993）、神奈川県花見山遺跡・上野遺跡出土例などがある。

第1群土器や第3群土器の類例には、山形県日向洞窟（井田 1990）、小瀬が沢遺跡出土例がある。第2群土器の類例には、上野遺跡第1地点第1文化層の隆起線文土器、花見山遺跡第1群3類a（隆起線文土器微隆起線のみのももの）がある。

隆起線文の施文の変遷過程は隆帯状施文から細隆起線文そして微隆起線文とされる。とすれば、星光山荘B遺跡の隆起線文は隆起線文土器の最終末の土器と考える。

2 局部磨製石斧

神子柴型石斧は「大型で横断面が三角形かカマボコ形した石斧である。刃部を研磨したものと研磨しないものがあり、刃部刃縁が直線をなすものと弧状になるものがある（森嶋 1988）。」とされる。星光山荘B遺跡の石斧（第2章では斧形石器）（図版53～図版55）は、横断面が三角形やカマボコ形を呈し神子柴型石斧の範疇に含めてよいと思われる。

神子柴遺跡（林 1959）・唐沢B遺跡（第47図1～4）出土例と星光山荘B遺跡の石斧を比較すると、その横断面形は神子柴遺跡・唐沢B遺跡例ほど甲高のものが少ない。または、神子柴遺跡・唐沢B遺跡の石斧ほど大型ではない。

そのほか、長野県内出土の神子柴型石斧を第47図6～12にあげた。第47図のように、これらは厚み3cm以上のものが多い。星光山荘B遺跡例は厚みの3cm以上（138・147）のものが2点しかはなく、甲高のものが少ない。また、長さも15cm以上のものは2点（141・145）しかなく、全般に小型の細身のものが多い。

「古手のものは概してずんぐり形で、新しい段階のものは狭長形であり、小型になることも注意される。道具として機能の終焉を意味している。」(森嶋 1988) という森嶋の編年観によれば、星光山荘B遺跡の石斧は神子柴型石斧の新しい段階の石斧と思われる。

3 有茎尖頭器（有舌尖頭器）と細身柳葉形の槍先形尖頭器

星光山荘B遺跡の有茎尖頭器は、大きさにばらつきがある（図版32）。細身のⅡ類とした有茎尖頭器（図版33—20・21）、細身柳葉形の槍先形尖頭器（図版33—24・26～28）も出土している。

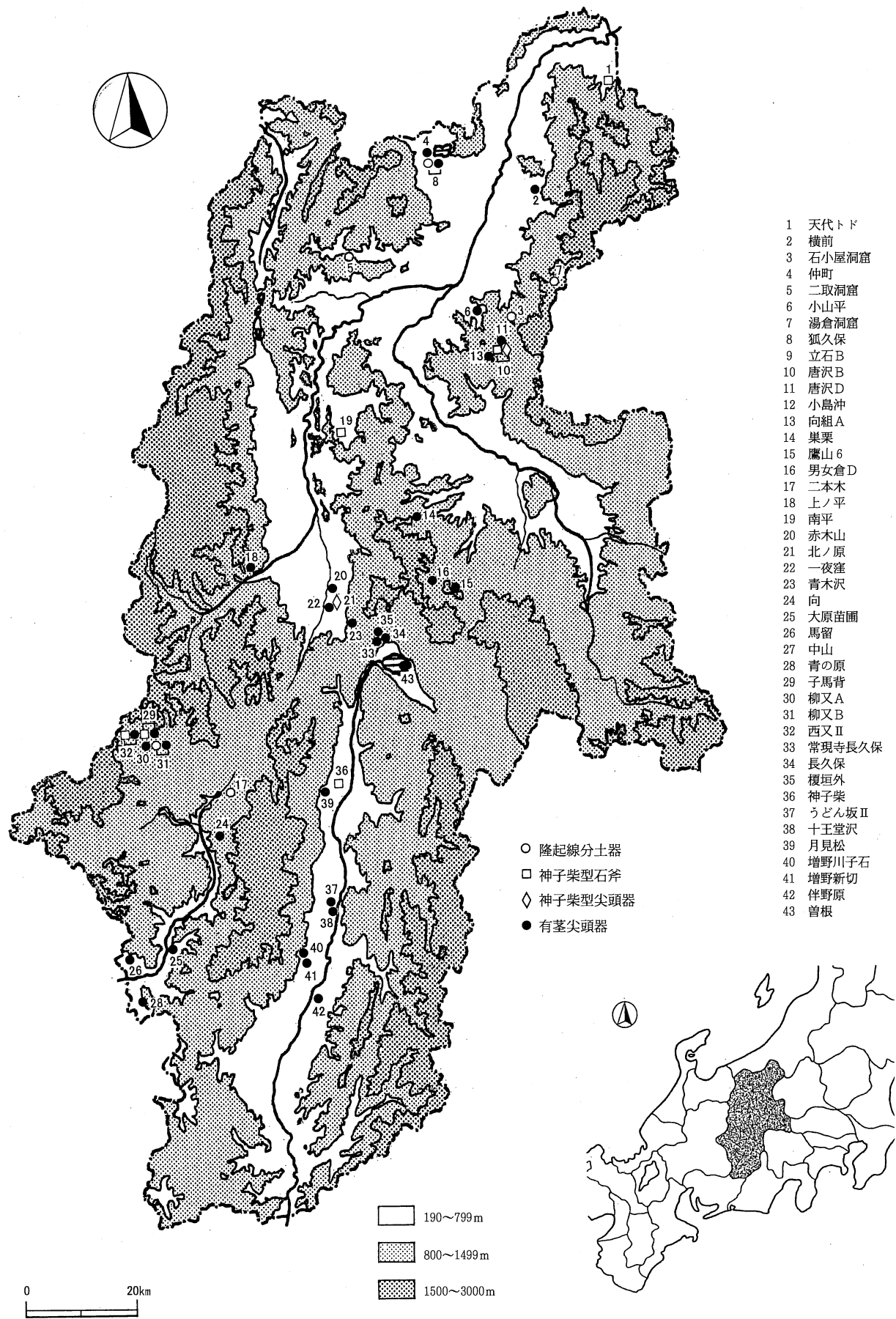
また星光山荘B遺跡の有茎尖頭器は、31点と纏まった点数が出土している。南信地区の開田村柳又遺跡や西又Ⅱ遺跡・小馬背遺跡では纏まった点数が出土している（森嶋 1988）が、北信地域では有茎尖頭器は単独出土例が多い。

星光山荘B遺跡のものは小型で、基部の作り出しが明確なものが多い（図版32・図版33）。基部の返しが無発達な柳又遺跡出土例や、隆起線文土器が出土している西又Ⅱ遺跡例のように基部の作り出しの鋭い有茎尖頭器とは様相が異なる。一方、隆起線文土器の伴う信濃町狐久保遺跡（森嶋 1988）の有茎尖頭器と星光山荘の第Ⅱ類の有茎尖頭器は類似する。また、星光山荘B遺跡の細身柳葉形の有茎尖頭器や槍先形尖頭器（図版33—20～24・26～28）は新潟県小瀬が沢遺跡の有茎尖頭器や槍先形尖頭器（小熊他 1993）に類似する。

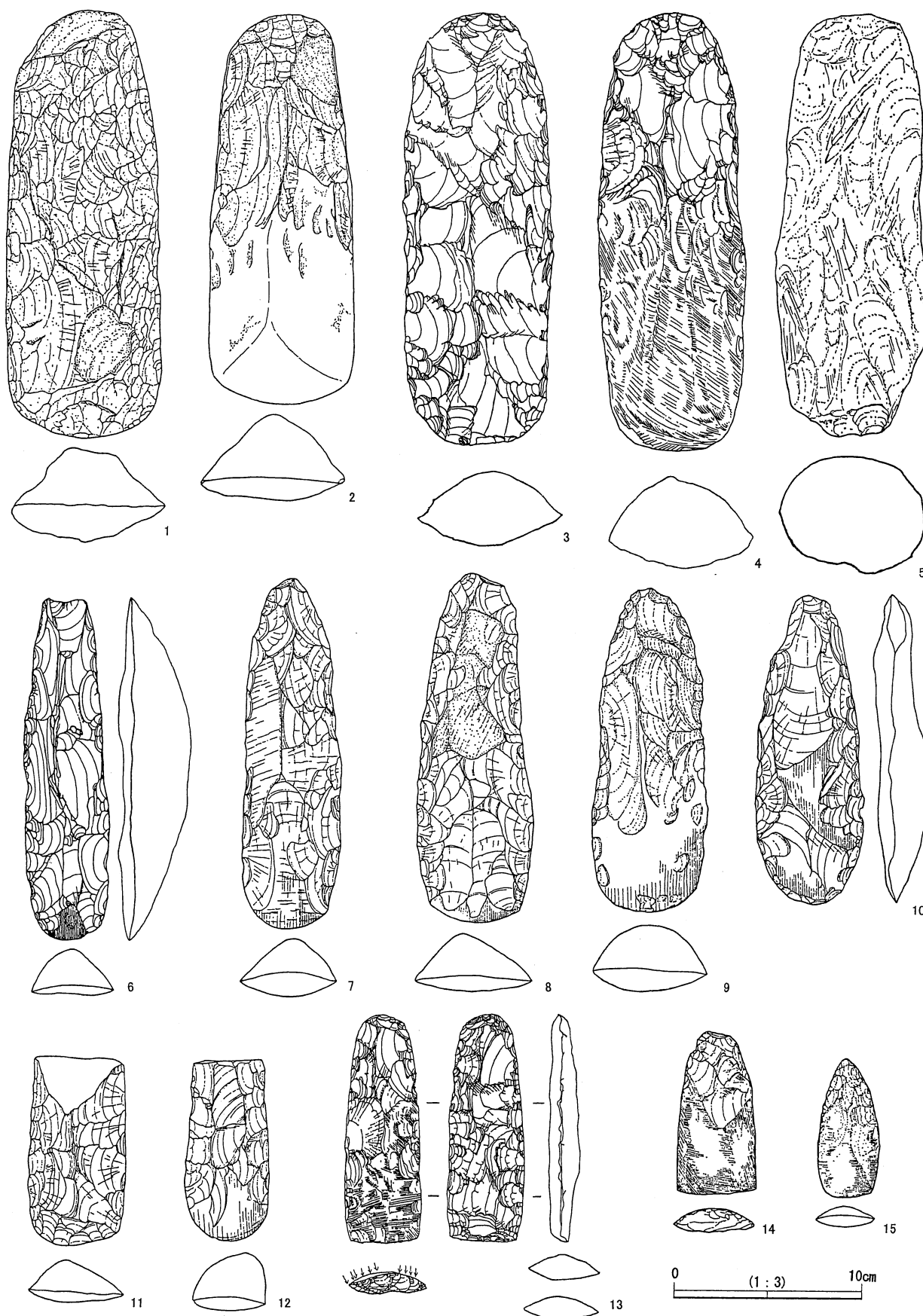
筆者は星光山荘B遺跡の隆起線文土器、局部磨製石斧、有茎尖頭器などの石器群は出土状況から一時期の相伴遺物と考える。長野県内では今日まで、隆起線文土器と神子柴型局部磨製石斧と有茎尖頭器の相伴した良好な遺跡がなかった。今回の発見は隆起線文土器の終末期のものとされる微隆起の隆起線文土器と新しい段階とされる狭長形、小型化の神子柴型石斧、小瀬が沢遺跡のものに類似する細身柳葉形尖頭器や有茎尖頭器と大小さまざまな有茎尖頭器など、一時期のまとまった土器と石器のセット資料として重要な役目を持つものであると思われる。

引用文献

- 井田秀和 1990 「山形県東置賜郡高畠町日向洞窟遺跡・西地区」『日本考古学年報』 41
- 金子富雄 1933 「長野県上水内郡柵村追通石器時代洞窟住居址」『史前学雑誌』 5-5
- 神村透 1983 『二本木遺跡・稲荷沢遺跡』
- 神田五六・金井喜久一郎 1935 a 「上水内郡柵村追通石器時代洞窟の調査報告」『信濃』Ⅰ-2-6
- 神田五六・金井喜久一郎 1935 b 「柵村追通石器時代洞窟の調査報告補遺」『信濃』Ⅰ-2-7
- 神田五六・金井喜久一郎 1935 c 「追通洞窟採集のクルミについて」『信濃』Ⅰ-2-11
- 小熊博史・前山精明 1993 「新潟県小瀬が沢洞窟遺跡出土遺物の再検討」『シンポジウム1 環日本海における土器出現期の様相』 日本考古学会新潟県大会実行委員会
- 小林 孚 1983 「狐久保遺跡」『長野県史考古資料編1-2』
- 小林達雄ほか 1980 『壬遺跡』 國學院大學文学部考古学研究室
- 小林達雄ほか 1981 『壬遺跡 1981』 國學院大學文学部考古学研究室
- 小林達雄ほか 1982 『壬遺跡 1982』 國學院大學文学部考古学研究室
- 小林達雄ほか 1983 『壬遺跡 1983』 國學院大學文学部考古学研究室
- 関 孝一 1971 「古代漂泊生活者の跡をたずねて」『官報たかやま』 164
- 関 幸一 1973 「湯倉洞穴遺跡（第1次）」『日本考古学年報』 24
- 関 幸一 1974 a 「湯倉洞穴遺跡（第2次）」『日本考古学年報』 25
- 関 幸一 1974 b 「菖蒲沢洞穴遺跡」『日本考古学年報』 24



第46図 長野県内縄文時代草創期遺跡分布図



1・2・14・15 神子柴遺跡 3～5・13 唐沢B遺跡 6 小島沖遺跡 7 仲町遺跡 8 砂間遺跡（信濃町） 9 立ヶ鼻遺跡（信濃町）
10 猪平遺跡（長野市） 11 ゴンボ山遺跡（豊野町） 12 狐久保遺跡

第47図 長野県内出土の神子柴系石斧

						土器				石器組成																	
地区	市町村	県史番号	第46図	遺跡名	微隆起線文	細隆起線文	隆起線文	その他	尖頭器	神子型柴石斧	神子柴型尖頭器	有茎尖頭器	石鏃	礫器	石皿	石槍	搔器	有溝砥石	砥石	打製石斧	彫器	遺構	その他	文献			
北信	栄町	32	1	天代ト'					○	○																	
北信	山ノ内町	37	2	横前							○	○	○	○													
北信	須坂市	52	3	石小屋洞窟	○			無文・斜縄文・羽状縄文・爪形文																永峯 1957			
				石小屋洞窟																				永峯 1965			
				石小屋洞窟																				永峯 1967			
北信	信濃町	81	4	仲町				爪形文			○	○				○	○	○				土壌		岡本他 1981			
				仲町																				吉松・小林 1975			
				仲町																				野尻湖発掘調査団 1975			
				仲町																				信濃町水道課 1980			
				仲町																				歌代勤他 1980			
北信	戸隠村	15	5	荷取洞窟			○						○			○				○				金子1933			
				荷取洞窟																				神田・金井 1935			
				荷取洞窟																				神田・金井 1935			
				荷取洞窟																				神田・金井 1935			
				荷取洞窟																				喜田1935			
				荷取洞窟																				醉古生 1935			
				荷取洞窟																				町田 1935			
				荷取洞窟																				八木 1935			
																								大場磐雄			
北信	長野市(若穂地区)	7	6	小山平								○											チャート剥片	小林 1963			
北信	高山村	22	7	湯倉洞窟			○		未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	未報告	戸沢 1994			
				湯倉洞窟																				関 1981			
				湯倉洞窟																				関 1967			
				湯倉洞窟																				関 1968			
北信	信濃町	70	8	狐久保	○	○	○	無文土器	○[1]			○[1]	○[1]				○[1]				○[2]		尖頭器片[4]・石刃[2]・剥片[3]	小林孚 1968			
																								森嶋・小林 1960			
																								小林孚 1983			
東信	川上村		9	立石B	○																						
東信	真田町	31	10	唐沢B						○	○						○		○		○	土壌・焼礫址	剥片	森嶋 1968			
				唐沢B																				森嶋 1969			
東信	真田町	33	11	唐沢D								○					○						石刃				
東信	真田町	40	12	小島沖					○[1]			○[3]					○[1]						植刃[1]	小原等 1973			
東信	真田町	41	13	向組A								○[1]											剥片				
東信	武石村	7	14	巢栗								○															
東信	長門町	55	15	鷹山6								○	○										石匙				
東信	和田村	24	16	男女倉C								○					○				○		ナイフ形石器・スホール・両面加工石器・ハンマー・ストーン・石刃・石刃核・不定形石器・原石・剥片・砕片				
中信	日義村	21	17	二本木			○																	神村 1965			

第62表 縄文時代草創期長野県内遺跡地名表 (1)

第16章 成果と課題

地区	市町村	県史番号	第46図	遺跡名	微隆起線文	細隆起線文	隆起線文	その他	尖頭器	神子型柴石斧	神子柴型尖頭器	有茎尖頭器	石鏃	礫器	石皿	石槍	搔器	有溝砥石	砥石	打製石斧	彫器	遺構	その他	文献	
中信	梓川村	21	18	上ノ平								○												神村 1970	
中信	本城村	17	19	南平						○															
中信	松本市	218	20	赤木山								○													
中信	塩尻市	11	21	北ノ原					○		○						○						石刃・ナイフ形石器		
中信	塩尻市	12	22	一夜窪					○			○													
中信	塩尻市	127	23	青木沢								○													
中信	上松町	21	24	向								○													
中信	南木曽町	15	25	大原苗圃								○					○								
中信	南木曽町	69	26	馬留								○													
中信	山口村	19	27	中山					○			○													
中信	山口村	29	28	青野原								○												神村・山田 1966	
中信	山口村			青野原																				山田 1966	
中信	山口村			青野原																				神村 1970	
中信	開田村	18	29	小馬背				草創期土器	○	○		○	○											石匙・チャート片	
中信	開田村			小馬背																				伊深 1970	
中信	開田村			小馬背																				木曽考研会 1973	
中信	開田村	21	30	柳又A					○			○					○				○			石刃・細石器・植刃・ 鏃形石器・剥片・ナイフ形石器	樋口・森嶋1959
				柳又A																				樋口・森嶋 1960	
				柳又A																				森嶋 1959	
				柳又A																				木曽西高校地歴部考古班 1961	
				柳又A																				樋口 1961	
				柳又A																				樋口・森嶋 1962	
				柳又A																				小林1967	
				柳又A																				樋口他 1967	
				柳又A																				加賀 1974	
				柳又A																				樋口・森嶋・小林 1965	
中信	開田村	21	31	柳又B			○		○			○					○							横刃・鏃形石器	
中信	開田村	34	32	西又Ⅱ					○	○		○					○				○			両面調整石器・石刃・剥片・挟入状搔器・石核	伊深 1974
				西又Ⅱ																				伊深 1971	
				西又Ⅱ																				木曽考学会 1973	
				西又Ⅱ																				伊深智 1974	
南信	岡谷市	1	33	常現寺長久保								○													
南信	岡谷市	11	34	長久保								○													
南信	岡谷市	25	35	榎垣外					○			○												両角 1932	
南信	南箕輪村	55	36	神子柴					○	○	[16]	[14]					○	[3]	○	[3]	○			石刃[12]石核[7]剥片[2]・木炭・ナイフ形石器・調整剥片・台石・	林 1959
				神子柴																				林・藤沢 1959	
				神子柴																				林・藤沢1959	
				神子柴																				藤沢 1959	
				神子柴																				藤沢・林 1959	
				神子柴																				著者不明 1959	
				神子柴																				林 1960	
				神子柴																				藤沢・林 1960	
				神子柴																				林 1961	
				神子柴																				林 1961	
				神子柴																				藤沢・林 1961	
				神子柴																				著者不明 1961	
				神子柴																				藤沢 1962	
				神子柴																				南箕輪村教育委員会 1969	
				神子柴																				長野県教委 1971	
				神子柴																				林 1983	
南信	飯島町	42	37	うどん坂Ⅱ								○												日本道路公団名古屋・長野教委 1973	
南信	飯島町	59	38	十王堂沢								○													

第62表 縄文時代草創期長野県内遺跡地名表 (2)

地区	市町村	県史番号	第46図	遺跡名	微隆起線文	細隆起線文	隆起線文	その他	尖頭器	神子型柴石斧	神子柴型尖頭器	有茎尖頭器	石鏃	礫器	石皿	石槍	搔器	有溝砥石	砥石	打製石斧	彫器	遺構	その他	文献
南信	伊那市	57	39	月見松								○											細石刃核	伊那市教委 1969 藤沢宗平 1969 藤沢宗平・林茂樹 1969 林茂樹 1976 伊那市教委 1977
				月見松																				日本道路公団名古屋支社・長野教委 1973
				月見松																				日本道路公団名古屋支社・長野教委 1973
				月見松																				大沢 1968 今村 1977 豊丘村教委 1977 今村 1978 豊丘村教委 1978 豊丘村教委 1979
南信	高森町	4	40	増野川子石								○												長野県史刊行会
南信	高森町	5	41	増野新切								○												長野県史刊行会
				増野新切																				長野県史刊行会
南信	豊丘村	76	42	伴野原					○			○												長野県史刊行会
				伴野原																				長野県史刊行会
				伴野原																				長野県史刊行会
				伴野原																				長野県史刊行会
				伴野原																				長野県史刊行会
〃	諏訪市	2	43	曾根				爪形文				○				○								長野県史刊行会

第62表 縄文時代草創期長野県内遺跡地名表 (3)

関 孝一 1983 「湯倉洞窟遺跡」『長野県史・考古資料編1の2』

関 孝一 1973 「湯倉洞窟遺跡 (第1次)」『日本考古学年報』 24

関 孝一 1974 「湯倉洞窟 (第2次)」『日本考古学年報』 25

長野県史刊行会 1988 『長野県史』 考古資料編 遺物・遺構 1-4

林 茂樹 1959 「神子柴遺跡発掘調査略報」 1 『上伊那教育』 2

林 茂樹 1960 「長野県上伊那郡箕輪村神子柴遺跡出土の円盤型石斧について」『信濃』Ⅲ-12-6

林 茂樹 1961 a 「伊那の石槍」『伊那路』 5-3

林 茂樹 1961 b 「神子柴遺跡の意味するもの」『上伊那教育』 26

森 嶋稔 1988 「生産と生活の道具」『長野県史』 考古資料編 1-4

第2節 表裏縄文土器について

1 表裏縄文土器の器形

貫ノ木遺跡、東裏遺跡日向林A遺跡、七ツ栗遺跡について観察した。観察は口縁部片で、表裏縄文土器と確認できる個体についてのみ分析を行った。したがって、分類は全点を把握しているものではない。分類可能な破片数は貫ノ木遺跡24点、東裏遺跡153点、日向林A遺跡216点、七ツ栗遺跡29点である。

(1) 胎土

二種の土器胎土が観察される。第1種は黒雲母や白色透明の石英粒（火山灰）が多量に含有しザラザラとした器面をもつもの。第2種は白色の長石と思われる粒が多量に含有しているもの。大きな粒のものや細粒のものなどさまざまであるが、前者がザラザラとした器面のものに対し、硬質な感じがあるが細粒のものは表面に粉っぽさが残るものもある。

第1種の含有物の多い遺跡は、東裏遺跡である。約80%近くがこの類であった。第2種が多い遺跡は、